

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方々とかかわりを持ちながら、グループホームの意義を踏まえて理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティングや研修等で理念の実践に向けて日々職員に話す機会を作っている。迷った時や壁にぶつかった時に、より所となるものとして、理念の言葉の意味を掘り下げて話し合っている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居契約時に理念を利用者、家族に説明している。理念を載せているパンフレットを地域に配布したり、ホーム便りを家族へ発信し、地域の人々にも理解して頂けるよう努めている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	天気の良い日は散歩に出かけ、隣近所の人と挨拶をかわすことで会話へ発展し、ケアハウスの入居の方が季節の花をもってきて下さったり、地域に住んでいる御家族が野菜のさし入れ等をして下さる。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事（盆踊りやどんど焼き、花祭り等）に参加交流している。又他事業所の利用者が訪問して下さったりしている。法人として地域町内会組長会議に毎回出ている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の得意分野を生かし、新聞のチラシでくず入れを作って、特養やショートステイに持って行き交流を図っている。又手作りのおやつを作って託児所の幼児や認知症ディサービスの方を招待したりして交流を図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームの質の確保と向上の為に、事業所全体で、外部評価の改善に取り組んでいる。項目について全職員で話し合い、点検していくなかで、日々の介護への反省点も見つかり、この過程でのプロセスの大切さを理解している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、利用者の近況や活動状況やサービスに対する意見交換を行い、地域代表の方から助言等も頂いている。又外部評価についても課題について報告し話合っている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村から運営推進会議の出席により意見を頂いているが、この他にも広域連合より介護相談員が、毎月2回の定期訪問にて入居者の方と交流をされ、意見を頂いており、質の向上に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修報告会を通じて制度について学ぶ機会を持っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	開設当初より虐待は絶対しないことが、松快園の方針として徹底しており、勉強会やミーティング等を行い、職員は虐待の防止への意識も高い。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書及び重要事項説明書をわかりやすく説明し、納得して頂いている。解約時は家族と充分話し合い、退居先の紹介、支援を行っている。		

福岡県 松快園GHやすらぎの里 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者から一人参加して頂き意見を頂いている。広域連合より介護相談員も来て下さり、利用者との意見交換等して頂いている。又苦情窓口の公開をし、外部者へ表せる機会も設けている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りに利用者の近況、預かり金の残金を記入する欄を設けている。面会された時、定期受診の結果や近況をお知らせし、金銭出納帳をみて頂き報告している。又暑中見舞い・年賀状・文化祭の案内は職員が支援し、利用者に自由に書いて頂いている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見・要望があった時はすみやかに対処し、結果を報告している。又ホームの玄関先に苦情相談の箱を設けている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・勉強会・職種会議等で職員が遠慮なく云える雰囲気の中で、意見要望が聞ける機会を作り、職員の向上心へつなげている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な職員配置はできており、職員の急な休みの時や行事等には人員配置を強化する等策を立てている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限度にとどめておりできるだけ異動がないようにしている。あった場合は引継ぎ期間を十分とり、なじみの職員が横について利用者によく慣れて頂くよう心がけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集採用に関しては、性別や年齢等を理由に採用していない。働く職員については、その職員の得意分野を活かして能力を発揮してもらい、サービスに反映している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修報告会を通じ、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。入居者に対する人権の尊重はサービスを行う上で常に意識する必要があるため、勉強会や朝礼で伝えて啓発活動に取り組んでいる。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修を行ったり、グループホーム内での研修会、他事業所での研修会等にも参加している。認知症介護実務者研修をはじめ、職員のレベルの段階に応じて外部研修にも積極的に参加している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会員となり、研修会や懇親会に参加し、他同業者との交流をもち情報交換をしてサービスの質の確保、向上への取り組みを行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減する為昼休みは職員が交代で事務所で休憩し、利用者から離れる時間を作っている。仕事でわからないこと等は、上司に気軽に聞きスーパーバイザーの役をしてもらっている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人全体で年間を通じて研修会を行ったり各部署の勉強会や研修会に参加し、勉強会や研修会の発表の場を設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前より本人や家族の意見を十分に聞きグループホームの生活について説明した上で安心して利用して頂けるようにしている。又今までの生活歴や心身の状態を聞き、御本人の思いに向き合い、信頼関係が築けるようコミュニケーションをとっている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用されるまでの介護の状況や困っていることを本人の思いとは別にゆっくり聞き、安心して頂くよう努力している。又どんな不安や何を一番必要とされているかを受け止めるようにしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設を見学に来訪されたり、申し込みに来られた時には実情や要望をよく聞き、他のサービス利用等も説明している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームに馴染んで頂く為、時々遊びに来て頂いたり、行事の案内を出し一緒に参加して頂くことにより入居前より交流を図っている。		
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や裁縫・歌(カラオケ)・習字・縫い物・絵手紙等利用者にはそれぞれの得意分野があり、職員と一緒にしながら楽しい時間を共有し、お互いを支え合う関係を大切にしている。		
		○本人を共に支えあう家族との関係			

福岡県 松快園GHやすらぎの里 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
30	—	職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生会、ホームでの行事や家族母の記念行事等、共に参加したり、情報交換を密にすることにより家族と支えていく関係づくりを築いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム便りで利用者の近況を伝えたり、行事への参加の機会を持ち、家族が関わる場面を多く作っている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他事業所におられる馴染みの人や、知人に会いに行ったり、グループホームに来て頂き交流を図っている。又、馴染みのある場所へドライブの際に立ち寄り、知人友人等と交流している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	できる人ができない人をサポートしたり、孤立する利用者がいないよう、職員が支援をする。利用者同士が支え合う関係作りに努めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去されても継続的に面会に行ったり、来ていただいたりして交流をもっている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや言葉にしづらい事を日々の対話や言動・ちょっとした変化も見のがさないよう観察して、思いをくみとり実現できるように支援している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族、利用者から生活歴、職業歴、生活環境等を聞き経過の把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズムを把握し、毎日の生活の中で細かいことも見落とさず、できる力・わかる力を発見し、ミーティングを行い、把握したことを、介護へ活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞き、職員全員で意見交換をし、検討し、介護計画の作成に活かしている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の変化や家族の要望に応じてプランの見直しを行い、日常生活で気付いたことをカンファレンスによりケアプランの見直しを行っている。。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、変化があった場合、申し送りでも伝え、職員間での情報の共有をおこない、計画の見直しも行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、健康診断や医療処置を受けながら生活の継続をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館に月2～3回行き、絵本、ビデオ等を利用し楽しんでいる。近隣の小中学生が体験学習に来て老人福祉を学んでいる。		

福岡県 松快園GHやすらぎの里 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネージャーを通して入所前より連絡をとり合っている。又必要に応じてホームヘルパーを利用したり、入所前にショートスティ、老健に入所して頂くこともある。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して下さる様依頼したり、周辺情報等の情報交換をし、協力関係を築いている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同施設内に吉田中央クリニックがあり、かかりつけ病院として入所の際利用者、家族に説明し納得して頂き、支援関係を築いている。又利用者・家族の希望・利用者の状況に応じて他の病院にも受診されている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の状況に応じ、認知症の専門医を受診するようにすすめている。又職員も利用者の状況を見極め認知症専門医にも相談をしている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制をとっており、1週間に1度吉田クリニックの看護職員に状態観察をしてもらい、相談しながら健康管理に努めている。又急な発熱等の時は直ぐに連絡とれるようにしている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入退院の時には必ず家族と一緒に付き添い医療機関へ本人の普段の情報の提供を行いケアについて話あっている。退院後のケアについては家族・医療機関と相談し、今後のケアに活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今現在、重度の利用者がいないが、同施設内のクリニックと医療連携をとっており、必要に応じ早い段階で、本人、家族の要望を医療機関、職員と話し合うよう体制を整えている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期における援助方針にそってその人らしく生きれるよう、家族・医療機関・職員が連携をとりながらチームで支援出来るよう話し合いをしている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者本人が別の居所へ移り住む際は、家族・本人・職員で十分話し合いをし、退去先へはアセスメント・ケアプランや支援状況等の情報提供を、プライバシーに配慮して行う。職員は他利用者と訪問し、環境の変化へのダメージを防ぐことに努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個人のプライバシーを尊重しながら言葉かけ、誘導するように配慮している。又個人の情報は外で漏らすことのないよう守秘義務を守っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で本人の力量に合わせて、自己決定の場面作りを行っている。表現できない方には、本人の細かい言動に気をつけ観察し、本人の希望や好みを把握している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが、一人一人のペースを大切に、身体レベルに合わせた散歩や買い物への外出を支援し、柔軟に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者本人がその人らしい身だしなみや、おしゃれを大切にしている。同施設内の理美容室を利用し、本人の希望の髪形にしている。又、本人の馴染みの美容院に家族等が同行している利用者もいる。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ケアハウスレストランより主菜は作ってもらうが、副菜とおやつは利用者と職員と一緒に作り、月に何回か希望を聞いて一緒に買い物に行き調理を楽しんでいる。又屋外に飲食に行ったり、お弁当を作ってドライブをし、季節感を味わったり、食事が楽しくなるよう支援している。又利用者・職員と一緒に準備、食事、片付けを行っている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	月に2度は飲酒の日として希望の飲みものを飲んでいる。又、就寝前に希望された時は少量のお酒を飲まれる方もいる。又利用者と一緒に好きなおやつを買いに行き、毎日楽しめるよう支援している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートを作成し、利用者1人1人の排泄パターンに合わせ、プライバシーに配慮してトイレ誘導や声かけを、おこない気持ちよく過ごして頂けるよう支援している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望を聞き毎日の入浴を原則として実施している。又、日曜日は希望者はケアハウスの広いお風呂に行き、楽しんでいる。入浴拒否の方には無理じいせず、声かけに工夫をしてその気になるよう心がけている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、安心して気持ちよく休息し眠れるように支援している。又眠れない方はお茶を飲みながら、会話をし安心して眠れる様に支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の培ってきた経験を活かして家事を分担したり、やりたいことや好きなことをして頂いている。例えば縫い物・書字・折り紙・頭の体操等がある。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に何度かは利用者と一緒に買物やドライブに行き、その方の能力に応じて支払いを支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内だけで過さず、季節を肌で感じていただけるよう晴天の日は積極的に出かけている。又歩行状態に合わせて歩くペースを合わせたり、歩行困難な利用者は車椅子で外出支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族には本人の希望を伝え、外出して頂ける機会を相談しながら作っている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に希望や用事がある時はプライバシーに配慮しながら電話や手紙のやり取りができるように個人の能力に合わせて支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や知人がいつでも訪問しやすいように雰囲気作りをしている。又訪問された時はお茶を出し、ゆっくりくつろいで頂ける場所を提供している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人が身体拘束禁止を掲げており、どんな場合においても身体拘束はしない事を徹底している。又今後とも身体拘束をしない為にも全職員で研修会を行っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内は鍵をかけない事が原則となっており、鍵はかけていない。常に利用者の行動を職員同士で把握しており、徘徊される方については気分転換に散歩に出かけたりしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は事務作業をする時も、全体が見渡せる場所で行い、利用者のプライバシーに配慮しながら常に所在を把握し、安全を確認している。又センサー等は設置していない。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤、洗剤、刃物等注意の必要な物は決まった場所に安全に保管している。又、調理等で使用する時は職員がそばにつき危険のないよう気をつけている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐ為に、環境整備をし、転倒のリスクの高い方は見守り、嚙下の良くない方は刻み食にする等注意している。日頃より研修会も行い、又事故やヒヤリハットが発生した場合は記録をし、職員全員で検討・反省し今後の事故防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日頃より研修会を行い、定期的に訓練を行っている。オンコール体制による急変時の対応もしており、緊急連絡網による職員の応援体制を整備し、定期的に確認している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	グループホーム内の避難訓練を全職員で行っている。又他事業所の避難訓練に参加し、年2回消防署、消防団と地域住民による訓練にて地域の方との連携をしている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりの状態を把握し、リスクを予測される利用者については家族と話し合い抑制感のない暮らしの大切さを踏まえ、リスクのないよう対応策を話し合い理解して頂いている。又状況変化に応じて見直しを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日健康チェックを行ない、体調に変化や異変がないか観察に努めている。兆候に気づいた時は、全職員で情報を共有し様子観察を行っている。又必要に応じて受診する等対応している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が把握できるように薬の用法や用量・副作用等が記入されているファイルを作成し、いつでも見られるようにしている。又変化のあった時は医師・家族に報告し記録している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給・散歩等行い、食事・おやつ等にも工夫をして自然排便ができるよう取り組んでいる。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアをするよう声かけ・誘導し十分にできない利用者には職員が介助し、清潔保持に努めている。又、夜間は消毒する為義歯を預かっている。歯科往診による口腔ケアの指導も受けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を毎日記録し、一日を通じての摂取量を把握し、不足を生じないように細めに声かけしている。献立は栄養士によって作られているが、1人ひとり食べたい物を聞き全員で調理する日も月に何度か設けている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、定期的に研修会を行っている。随時地域の感染症発生状況に応じ、職員に周知し予防対策等を行っている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や台所用品は洗剤にて洗浄後乾燥器にかけ熱処理している。ふきん・台ふきんはハイター消毒後乾燥している。週1回環境整備を設け、冷蔵庫はアルコール洗剤で消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲には季節の花を植えたり、季節感ある作品を飾り工夫している。玄関のエレベーター前の長椅子は出入りの時の安全の確保の場となっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には利用者と一緒に作った合同作品を季節に合わせて飾り、楽しめるようにしている。常に季節の花を植えたり、心地良い雰囲気を感じていただくようにしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやコタツ、玄関の談話室等で一人、又、は何人かで思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物や家具を置き、又、家族からのカードや写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気をするとともに、職員は常に匂いや、室温を意識し利用者の表情や状態に合わせた対応をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、廊下はカーペットを使用しているため、履物を使用せず歩行時の転倒を予防できる。バリアフリーで段差を解消している。体調の変化に応じてポータブルトイレや車椅子を使用し、個人の状態にあわせて使用している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の目印としてのれんをかけ、利用者の作品を飾り、表札をかけて混乱や失敗を防いでいる。又、浴室やトイレにもわかりやすく、暖簾をかけたり場所を表示している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには季節の花や野菜を植えて、水やりができたり、収穫の喜びが味わえるようにしている。又洗濯物を干したり、布団や毛布を干したりと活動の場となっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○法人が接遇研修を外部講師へ依頼して接遇研修を行い、福祉職員としての心構えや、高齢者へ対しての接し方を学んでいる。高齢者への尊厳を大切に、笑顔や挨拶・身だしなみ等の基本的なマナーの実践に向けて、日々研鑽している。当グループホームでは本人の希望や願いを実現できるよう支援し、又利用者の得意とする事やできる事を生活の中にとり入れ、生き生きとした生活ができるよう支援している。

○当グループホームはケアハウスの10階にあり、リビング・掘ごたつの部屋から大きなガラス張りを通して180度視界が広がり、まるで自然のふところに包まれているかの様である。

又建物自体がいろいろな変化に富んだ作り造りになっており、神社や噴水のある公園を取り囲む様に施設があり、桜並木や自然をとり入れた遊歩道等、四季の移り変わりを肌で感じながら散歩したり、花を鑑賞したりゆったりとした時間の流れを感じながら過ごせるグループホーム、まさにやすらぎの里。

○複合施設があり、他事業所の行事にも気軽に参加でき、利用者と交流を図っている。

○緊急事態(体調急変・火災)等が発生した時、他事業所からの応援体制が整っている。